

山形 月山山麓の家

12月半ばより屋根のふき替え工事のためしばらく中に入れません

工期の詳細等は当館HPをご確認ください♪

リトルワールドを一周すると最後に見えてくる大きな力ヤぶき屋根のおうち、「山形県 月山山麓の家」。同じ日本列島でも、北海道や石垣島の家ならわかるけど、「なぜ山形県の家…？」と思う方も多いでしょう。

今日はこのお家の魅力を解説！修復が終わったらしっかり見学しよう！

月山山麓ってどこ？

月山は山形県の中央部に位置する標高1,984mの山。

この山のふもと、かつて、西川町月山沢と呼ばれた集落にこの家が建っていました。月山沢の集落は寒河江ダムの建設により、現在はダム湖の下に、沈んでいます。



リトルワールドへの移築経緯

月山沢を含めたこの地域が、ダム建設により沈むことがきまた昭和50年(1975)頃、リトルワールドも建設準備が進んでいました。リトル側では、日本列島の文化を【南日本】と【北日本】に分けて紹介するため、【北日本】の代表として、東北の民家移築の計画がたちあがっていました。そこにたまたま、この集落が水没する…ということになり、それならば！と移築が決定したそうです。

家屋データ

【創建】1767(明和4)年 江戸時代中期
この時期は1階のみ、4室ほど
【増築】1888(明治21)年頃から
2階建て、中門、縁側などが増築。
現在の構造になったのは、1919(大正8)年頃とされる。

昭和50年代当時 移築前の月山山麓の家



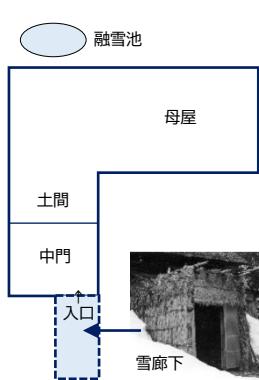
移築にむけ、解体中の様子

雪とたたかう家

東北の日本海側に位置する月山沢は日本有数の豪雪地帯。家には豪雪に備えるための工夫が！



冬季の月山沢。2~3mの積雪があった年もあるそう。



①中門造り

土間側の前面にある突出部は「中門」と呼ばれ、家の入口として、また荷物置き場や雪払い場として利用され、屋内の暖気を逃さない工夫。東北日本海側の豪雪地帯に多い伝統的な家屋の構造。

②冬限定の雪廊下

積雪期には、中門につづく入口に「雪廊下」と呼ばれる木材と力ヤで組み立てられる出入り口が作られ、家に入りやすくなる。

③融雪池

家屋の裏には下した雪を溶かすための池がもうけられている。

④板壁

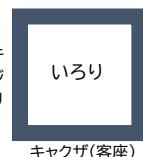
土壁は雪・雨に弱いため用いられず、板壁が使われる。

間取りから見る

1階部分だけみてもたくさんの部屋があることがわかる！
それぞれどんな機能があるのか、少しのぞいてみましょう。

●ザシキ(座敷)

カカザ



家屋の中で最も大切な場所で、ここにいおり(炉)を設けて、接客・調理・食事・休息・冬の夜なべ仕事などをする。
食事は「タナマエ」でおこなう。

【いろりのオキテ】

- ◆人によって座る位置が決まっている
「ヨコザ」…主人、「カカザ」…主婦
「キヤクザ」…客人、「キジリ」…最も下座

◆常に清潔を保たなければならない

- ・いろりのフチを踏んだらダメ
- ・爪、髪、鼻をかんだ紙を燃やさない
- ・子供が粗相をしたら、灰を取りかえ、塩をまいて清める

●ダイドコロ(台所)の隠し倉庫

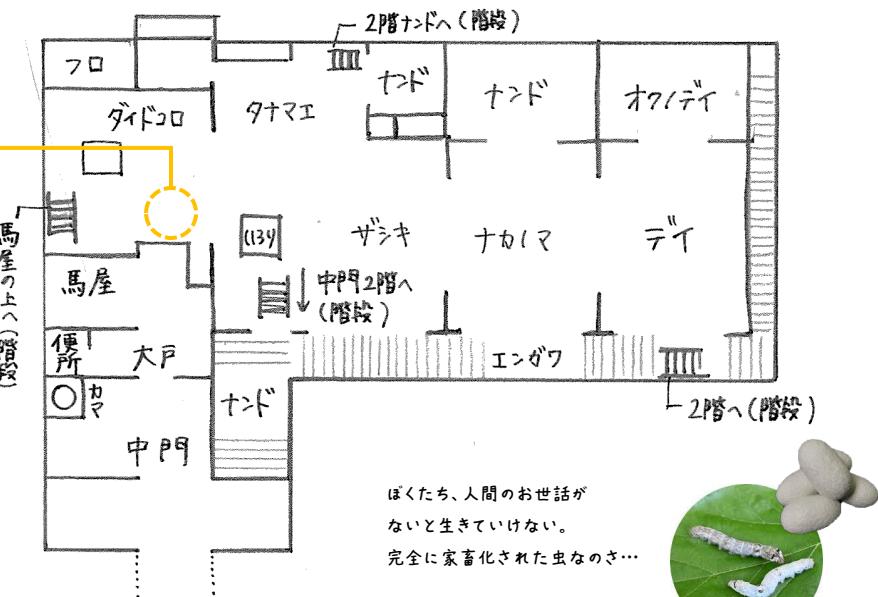
雪深くなる冬には外に出ることは少なく、
家に閉じこもっていることが多かったそう。
食糧は台所の床下の「ムロ(室)」に備蓄！

【備蓄された食糧】

- ・大根、白菜、にんじん、かぶ、ごぼうの塩漬け
- ➡野菜は自家用畑でとれたものを漬物に
- ・塩サケ・干しひし・塩クジラ(イルカ)
- ➡山形県の日本海側から運ばれたものを購入

●屋根裏と中2階

実は家の4か所に階段があり、中2階や屋根裏(2階)へつながっています。中2階は納戸として、物置や寝室として使われました。



ぼくたち、人間のお世話がないと生きていけない。
完全に家畜化された虫なのです…

●蚕とともに暮らす(デイと2階屋根裏)

明治中期～昭和初期にかけて、この地域ではカイコ(蚕)を育てて生糸(絹糸)を生産する養蚕産業が盛んになった。
この家が2階建て・大型化したのも、より効率的にたくさんのカイコを育て、生糸を生産するため。
「デイ」や2階の屋根裏は、カイコを育てる場所として使われた。

【家族以外も住まう家】

餌となる桑をとり、それを食べやすい大きさに切り、糞を掃除し…とカイコは人の手がなければ生きていけない。養蚕業が盛んな時期には、カイコのお世話でてんやわんや。手伝いとして近隣の集落から人(ヤトイトリと呼ばれる)が集まつたそう。
この家に住んでいた家族もいれると90人以上が一定期間この家でくらしていたとか！？ ちょっとした工場だね！！？

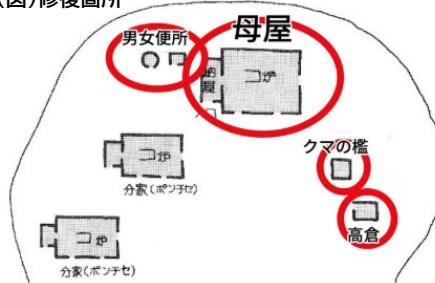
ぜひ、**それいにちつた**
山形 月山山ろくの家 を楽しみにぶ待ちください♪

2026年1月上旬
開始予定

北海道 アイヌの家 修復工事のお知らせ

※修復の様子はご見学いただけます

(図)修復箇所



当館の「北海道 アイヌの家」は、1983年の復元以来、19世紀末の二風谷アイヌの生活を伝えてきました。

このたび、老朽化に伴い、**北海道二風谷から職人をお呼び**して、母屋の茅葺き屋根を約15年ぶりに葺き替えるほか、高倉やクマの檻といった付帯設備も更新します！

修復工事のためのクラウドファンディングもラストスパート！
最後まで応援よろしくお願いします！(12/8 PM11:00まで)



応援はこちら